



Date

県内経済 〈3月〉

概 況

県内経済は、全体として持ち直しの動きが足踏みしている

電子部品および機械金属の生産は前年を上回ったものの、木材は低調に推移している。建設は、公共工事が前年を上回ったものの、住宅着工は前年を下回っている。個人消費は持ち直している。雇用情勢は改善の動きが弱まっている。

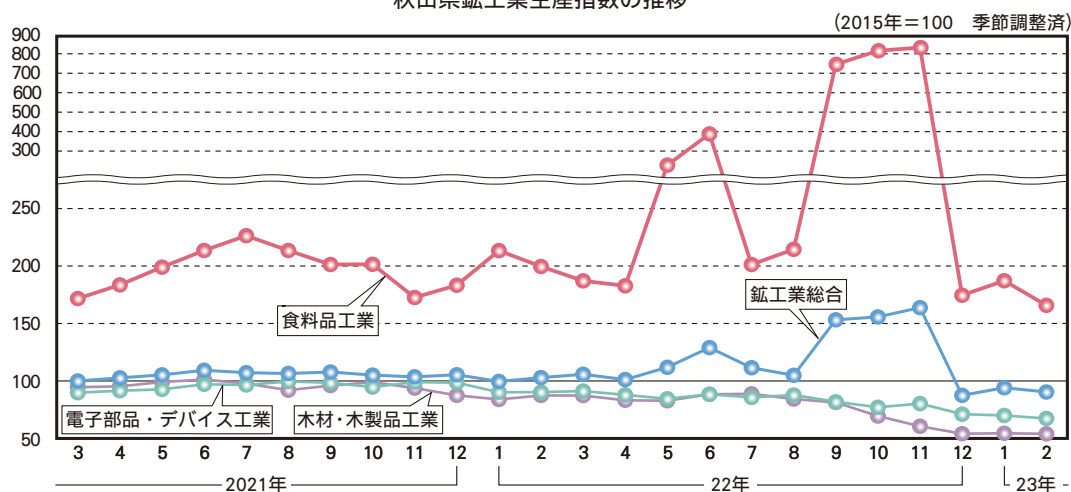
産業別の動向では、電子部品の生産額は、2か月ぶりに前年を上回ったものの、車載向けで一進一退の動きが続いている。機械金属の生産額は、3か月ぶりに前年を上回ったが、輸送機械で半導体をはじめとした部品不足が続く、先行き不透明感が残る。木材の生産量は、普通合板(2月)が15か月連続で前年を下回り、製材品は前年比横這いとなった。公共工事請負額は、2か月ぶりに前年を上回ったが、2022年度計では前年を下回った。地元大手(12社)の建設受注額は、民間工事で大口受注があり、3か月連続で前年を上回った。住宅着工は、

6か月連続で前年を下回った。個人消費は、小売店販売額(2月)が8か月連続で前年を上回っているほか、新車乗用車販売台数は半導体などの部品不足が改善傾向にあることから3か月連続で前年を上回るなど、持ち直している。

有効求人倍率は前月比0.09ポイント低下の1.33倍となった。新規求人数は前年比11.6%減となり、3か月ぶりに前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比31.1%減となり、3か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数は6件、負債総額は11億9,600万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移





電子部品

生産額、持ち直し

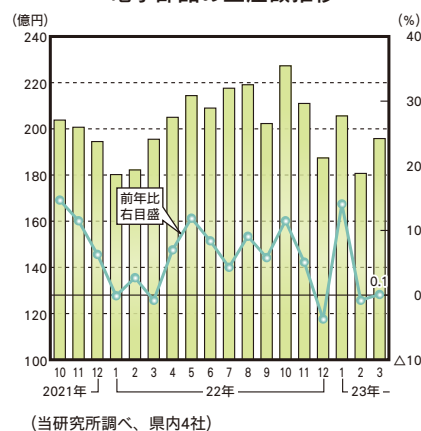
3月の生産額は前年比0.1%増となり、2か月ぶりに前年実績を上回った。

前月落ち込んだ車載向けは、電気自動車（EV）の需要が底堅く持ち直したものの、一進一退の動きが続いている。スマートフォン向けは回復の兆しがみられない。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは堅調に推移しているものの、半導体素子、産業向け液晶パネルは減少傾向にある。

なお、1～3月期は前年同期比4.3%増、2022年度通期では前期比6.1%増となった。

電子部品の生産額推移



機械金属

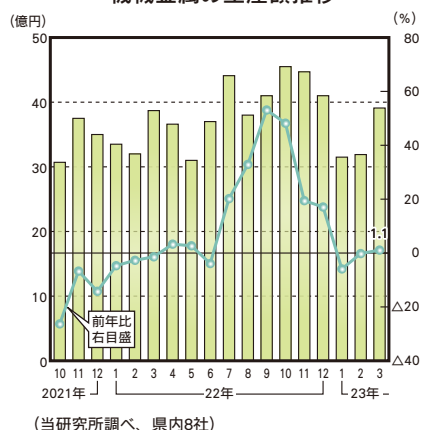
生産額、3か月ぶりに前年比増加

3月の生産額は前年比1.1%増となり、3か月ぶりに前年実績を上回った。

ウエイトの高い輸送機械は、生産調整の反動等により一時的に回復したものの、半導体をはじめとした部品不足は続いており、先行き不透明感が残ったままである。その他民需関連では、産業機械、建機部品は減少が続いており、金型は一進一退の動きとなっている。公共工事関連では、橋梁・鉄骨は増加傾向にあり、水道部品も堅調に推移している。

なお、1～3月期は前年同期比1.6%減、2022年度通期では前期比14.3%増となった。

機械金属の生産額推移



木材業

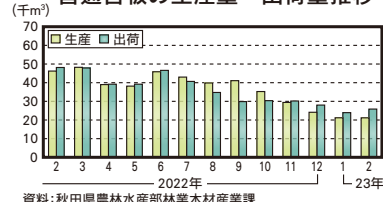
普通合板、製材品とも出荷減続く

全国的に、持家や木造の新設住宅着工戸数が低調に推移する中、不需要期に入り木材・木製品の荷動きは停滞感を強めており、メーカーも減産体制を継続している。本県でも、普通合板、製材品とも出荷量は前年割れの推移が続いている。

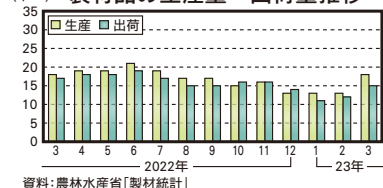
2月の普通合板は、生産量が前年比54.2%減と15か月連続で前年を下回り、出荷量も同46.3%減と12か月連続で減少した。在庫量は同74.6%増と7か月連続で前年を上回った。

3月の製材品は、生産量が前月に引き続き前年比横這いとなったが、出荷量は同11.8%減と15か月連続で前年を下回った。在庫量は同24.6%増と9か月連続で前年を上回った。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

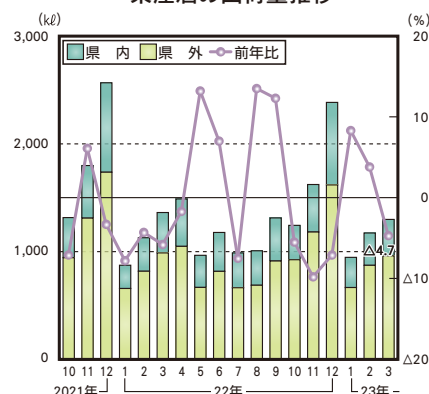


酒 造 業

出荷量、3か月ぶりに前年比減少

3月の清酒出荷量は、前年比4.7%減となった。物価上昇による節約志向の高まり、商品価格の引上げなどの影響から買い控えの傾向が強まり、3か月ぶりに前年を下回った。出荷先別では、県内向けが同9.9%減、県外向けも同2.8%減と、ともに減少した。県外の主な出荷先別では、東北5県が同13.5%減と大幅に減少したほか、北海道は同3.3%減、東京も同2.2%減となった。種類別では、普通酒は同8.8%減と前年を下回った一方で、特定名称酒が同0.4%増と前年を上回った。特定名称酒の内訳では、吟醸酒が同5.2%減と減少したが、純米酒は同7.0%増、本醸造酒も同6.1%増と増加した。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建 設 業

公共工事 国と市町村が増加し、2か月ぶりに前年を上回る

3月の公共工事請負金額は、国と市町村が増加し、前年比48.4%増と2か月ぶりに前年を上回った。2022年度計の受注実績は、前年度比0.2%減と2年連続で減少した。

一方、当研究所調査による地元大手12社の3月の新規受注額は、前年比138.3%増の16,498百万円となり、3か月連続で前年を上回った。官公庁工事は同22.6%減にとどまったものの、民間工事が、ホテルや店舗、工場や社員寮等新築の大口受注があり同775.0%増と大きく伸びた。2022年度計の受注実績は前年度比27.0%増の40,329百万円となり、2002年度以来20年ぶりに400億円を超えた。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区 分	3月	前年比	2022年度計	前年度比
件 数	372	4.8	2,594	△4.3
請負金額	30,393	48.4	168,162	△0.2

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区 分	3月	前年比	2022年度計	前年度比
官 公 庁	4,274	△22.6	19,986	△1.8
民 間	12,224	775.0	20,343	78.5
合 計	16,498	138.3	40,329	27.0

(当研究所調べ、県内12社)

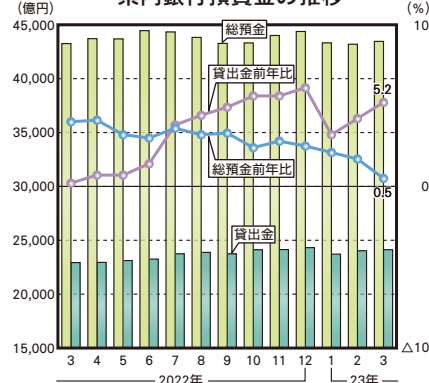
金 融

預金、貸出金とも前年比増加が続く

3月末の県内銀行の預金は、前月末比263億円増加し、前年比でも0.5%の増加となった。貸出金は、前月末比98億円増加し、前年比でも5.2%の増加となった。預金、貸出金とも前年を上回って推移しているものの、預金の伸び率は鈍化が続く一方で、貸出金の伸び率は前月よりも拡大した。

3月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は6件(前年比1件増)、負債総額は11億9,600万円(同4.1%増)となった。倒産件数は2012年11月以降125か月連続で一桁台または0件で推移している。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会



住宅着工

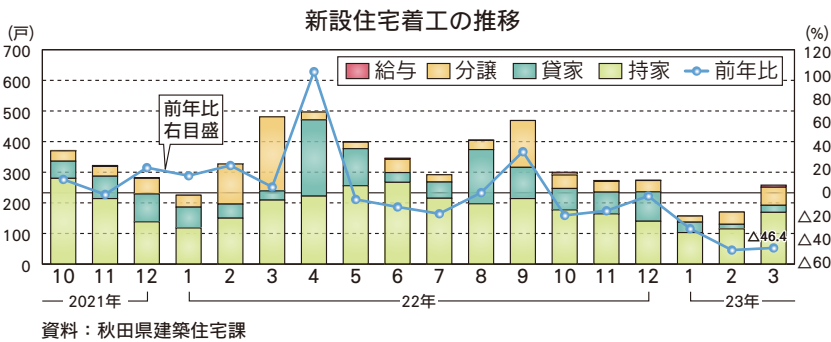
着工戸数、6か月連続で前年比減少

3月の県内新設住宅着工戸数は、258戸（前年比223戸減、46.4%減）であった。給与住宅は増加したものの、分譲住宅が大幅に減少したほか、持家と貸家も減少したため、6か月連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家が169戸（前年比40戸減）、貸家が23戸（同7戸減）、分譲住宅59戸（同183戸減）、給与住宅7戸（同7戸増）となった。

持家は、3か月連続で前年を下回った。貸家も、北秋田地域で減少し、3か月連続で前年を下回った。分譲住宅は、前年に秋田市でマンション着工があり増加した反動などから、4か月連続で前年を下回った。

地域別では、県北・県央・県南の全地域で前年を下回った。全地域で持家と分譲住宅の着工が減少したほか、県北は貸家の着工も減少した。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2023年3月	前年比	23年1~3月	前年比
県北	42	△41.7	101	△28.4
県央	164	△49.8	365	△47.9
県南	52	△36.6	119	△38.3
合計	258	△46.4	585	△43.4

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

持ち直している

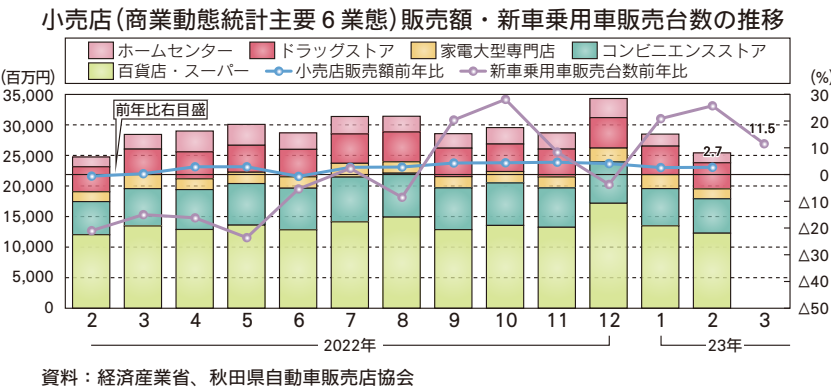
2月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比2.7%増となり、8か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、ドラッグストア（前年比4.5%増）、コンビニエンスストア（同4.0%増）、百貨店・スーパー（同2.1%増）、ホームセンター（同0.9%増）、家電大型専門店（同0.6%増）とすべての業態で前年を上

回った。

3月の新車乗用車販売台数は、半導体などの部品不足が改善傾向にあることから、前年比11.5%増と3か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、軽乗用車が同1.5%減と7か月ぶりに前年を下回ったものの、登録車は同21.1%増と3か月連続で前年を上回った。



3月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	4,785	11.5
登録車	2,997	21.1
普通車	1,651	53.2
小型車	1,241	△3.6
輸入車	105	△4.5
軽乗用車	1,788	△1.5

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	2022年12月	2023年1月	2月
①消費者物価指数	4.6	4.6	3.1
②勤労者名目賃金	△3.4	△0.1	2.0

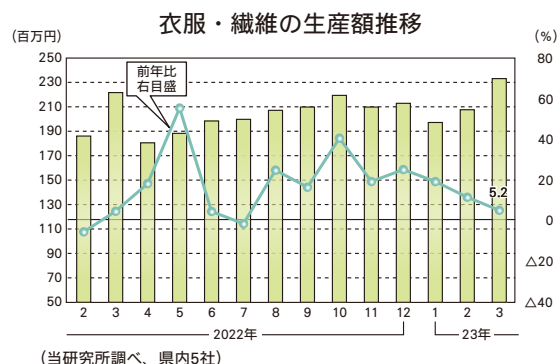
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、8か月連続で前年比増加

3月の生産額は、前年比5.2%増となった。首都圏の百貨店等の売上が好調に推移しており、8か月連続で前年を上回った。

受注は、春夏物が好調に推移しており、12か月連続で前年を上回った。一部では加工賃引上げによる収益改善がみられた。



雇用

改善の動きが弱まっている

3月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0.09ポイント低下の1.33倍となった。常用の内訳では、一般は同0.09ポイント低下の1.30倍、パートは同0.16ポイント低下の1.15倍となった。

新規求人数は前年比11.6%減となり、3か月ぶりに前年を下回った。産業別にみると、製造業は同7.0%減となった。「木材・木製品」、「食料品」などで増加したものの、半導体不足の影響などから「電子部品・デバイス・電子回路」、「電気機械器具」で大幅に減少した。非製造業は同12.2%減となった。「教育、学習支援」で増加したものの、

「建設」で一般住宅建築の減少に伴い求人が減ったほか、「サービス」でも前年に新設のコールセンターの大口求人があった反動で減少した。

新規求職者数は前年比1.4%減と、3か月ぶりに前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比31.1%減と、3か月連続で前年を下回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.47倍、県央が1.25倍、県南が1.05倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

(単位:人、%)

区 分		2023年2月	前年比	3月	前年比
新	規 求 人 計	8,796	2.6	9,076	△11.6
	製 造 業	1,024	3.7	1,036	△7.0
主 要 業 種 の 内 訳	食 料 品	176	57.1	186	17.0
	織 維	156	0.0	161	△9.6
	木 材・木 製 品	48	△9.4	104	46.5
	機 械 金 属	103	37.3	85	4.9
	電子部品・デバイス・電子回路	167	△10.7	80	△59.6
	電 気 機 械 器 具	59	△28.0	61	△30.7
	非 製 造 業	7,772	2.4	8,040	△12.2
	建 設	1,102	4.3	1,287	△6.7
	運 輸 , 郵 便	311	△9.9	341	△5.3
	卸 売 , 小 売	1,117	△4.3	1,222	△4.0
	宿 泊 , 飲 食 サービス	482	△9.7	948	△12.4
	生活関連サービス・娯楽	306	50.7	183	△45.5
	教育 , 学 習 支 援	196	16.7	248	14.8
	医 療 , 福 祉	1,476	△8.7	1,679	△13.5
	サ ー ビ ス	920	△6.4	1,069	△17.8
新 規 求 職 者 数		4,849	19.0	4,603	△1.4
有 効 求 職 者 数		16,851	6.3	17,832	6.0

資料:秋田労働局職業安定課
(注)臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位:倍、人、%)

区 分		2022年12月	23年1月	2月	3月
有 効 求 人 倍 率	一 般	1.59	1.50	1.39	1.30
	パートタイム	1.31	1.33	1.31	1.15
	全 数 (季 調 値)	1.54	1.49	1.42	1.33
	事業主都合離職者数	164	134	120	168
前 年 比		27.1	△39.1	△13.7	△31.1

3月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

(単位:人、%、倍、ポイント)

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比		前月比	
県 北	2,133	△3.0	1.47	△0.17
県 央	4,553	△1.7	1.25	△0.05
県 南	1,638	△28.4	1.05	△0.19
合 計	8,324	△8.7	1.24	△0.12

(注)臨時・季節を除く